

## 第20回 行政改革推進会議 議事要旨

### 【開催日時】

平成27年11月27日（金）9：10～9：20

### 【場所】

官邸4階大会議室

### 【出席者】

議長	安倍 晋三	内閣総理大臣
議長代理	麻生 太郎	副総理
副議長	河野 太郎	行政改革担当大臣
	高市 早苗	総務大臣（代理 土屋 正忠 総務副大臣）
構成員	秋池 玲子	ボストンコンサルティンググループシニア・パートナー& マネージング・ディレクター
	大塚 陸毅	東日本旅客鉄道株式会社相談役
	河村 小百合	株式会社日本総合研究所調査部上席主任研究員
	田中 弥生	独立行政法人大学評価・学位授与機構教授
	土居 文朗	慶應義塾大学経済学部教授
	畠中 誠二郎	元中央大学教授
	渡 文明	JXホールディングス株式会社名誉顧問

**【議事次第】**

- 1 開会
- 2 議事  
    平成 27 年「秋のレビュー」等の取りまとめ
- 3 議長挨拶
- 4 閉会

**【配布資料】**

- 資料 1 秋の年次公開検証（「秋のレビュー」）の取りまとめ
- 資料 2 - 1 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連事業について
- 資料 2 - 2 基金の再点検について
- 資料 3 行政改革推進会議による指摘（通告）

## 【議事の経過】

- 河野行政改革担当大臣の司会により、議事が進行した。はじめに、平成 27 年「秋のレビュー」等の取りまとめについて、河野大臣から報告があった。その後、議論に移った。

### （各議員の主な発言）

- ・ 今回のレビューは、広報効果が非常に高く、また、学生や若者の傍聴など、若い人にもレビューを身近に感じられる工夫をするなど、よかったと思う。事業の内容や予算の用途等について、国民に一層分かりやすく説明するために工夫することが、今後の課題。今後も、国民にとって行政が身近に感じられるよう、効果的なものとなるようお願いしたい。
  - ・ 行政改革や財政再建は、国民が当事者意識を持たないと成立しない。レビューの発信力を活用し、便益を受けている自分も予算を使っているという意識を育てていければと思う。
  - ・ PFI について、目標はあるものの、ほとんど手つかずの状態であり、特に水道の案件は進展がない。行政の縦割りが最大の問題であり、トップダウンによる障害の除去をお願いしたい。
  - ・ 行政改革は無駄の暴露ではなくて、日々の新陳代謝で無駄を改め、努力しているという姿を、国民に見せることが大事。
  - ・ 経済・財政一体改革と行政改革の連携のため、今回のレビューで社会保障の KPI のセッションを実施した。事業・政策の川上から川下まで一貫して管理するために、今後も連携を続けることが重要。
- 関連して、麻生副総理から、以下のとおり発言があった。

### （麻生副総理）

- ・ 今回の取りまとめについては、有識者の方々から非常に有益な御指摘を頂いたものと考えている。平成 28 年度予算は、経済・財政再生計画の初年度の予算であるため、事業を所管している各大臣が、この取りまとめ結果をしっかりと受け止め、リーダーシップを発揮して見直しを進めていただくことが重要。
  - ・ 財務省としても、行政改革推進本部事務局と連携し、今回の取りまとめで指摘された事項について、各府省と共に検討を行い、その結果を平成 28 年度予算等にしっかりと反映させていきたいと考えている。
- 最後に、安倍内閣総理大臣より、以下のとおり発言があった。

(安倍内閣総理大臣)

- ・ 委員の皆様におかれては、安倍内閣発足以来3度目となる「秋のレビュー」に御協力いただき、感謝する。
- ・ 国民の皆様にご負担いただく税金が、無駄な歳出や、優先順位が低い施策に使われるといった批判は、絶対に招かないようにしていかなければならない。
- ・ 本日、河野大臣から「秋のレビュー」等における指摘事項について報告があったが、これらはいずれも重要なものであり、麻生副総理からも御発言があったとおり、予算編成に的確に反映するとともに、さらに事業の改善に取り組んでまいりたい。
- ・ また、本日委員の皆様から御発言いただいた点についても、しっかりと受け止めて、今後の政策運営に当たってまいりたい。
- ・ 今回、河野大臣の下、国民的な関心が飛躍的に高まったため、国民の皆様の関心と声を力に変えて行政改革を力強く進めていきたい。

(以上)

(文責：行政改革推進本部事務局 速報のため事後修正の可能性あり)